自然とくらし

# 清流にすむドジョウ アジメドジョウ

童謡にも登場するドジョウ。田んぼや小川の，泥の中で見かけることが多い。しかし，きれいな川にもドジョウがいるのを，あなたは知っているだろうか。

▲長良川中流域（郡上市八幡町）

## 清流にすむドジョウ?!

「清流の国ぎふ」と呼ばれる私たちの岐阜県。県内には，清流が流れる河川が数多く存在する。

そんな清流で，体を左右にくねらせて泳ぐドジョウを見かけることがある。水中の石についている藻類を，吸盤状になった口で食べながら泳ぐドジョウ。これが，アジメドジョウである。

## アジメドジョウはどんなドジョウなの?

アジメドジョウの体長は，成魚で10cmほど。中部地方から近畿地方の清流の，上流から中流にかけて生息する。河川改修などによる環境の変化に敏感で，近年，その数が減少している地域もあるようだ。

また，アジメドジョウは，水がわき出るきれいな川にしか生息しない。それは，子どもを増やすために行う産卵に特徴があるためである。

▼アジメドジョウ

アジメドジョウは秋，川底から水がわき出す場所（アジメ穴とも言う）に潜り込んで冬を越し，翌春また川へ出てくるという習性をもっている。アジメ穴に潜っている間に産卵するため，卵が外敵に襲われる心配がなく，その分，他の魚類に比べて産卵数が少なくてすむ。

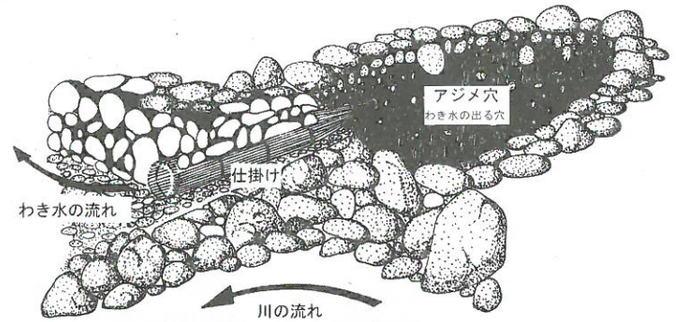
## どのようにして獲るの?

郡上市の漁師さんに話を聞いてみた。アジメドジョウを獲る漁法は２種類が有名で，１つは「アジメ穴漁（アジメ筌漁法）」，もう１つは「登り落ち漁」だという。

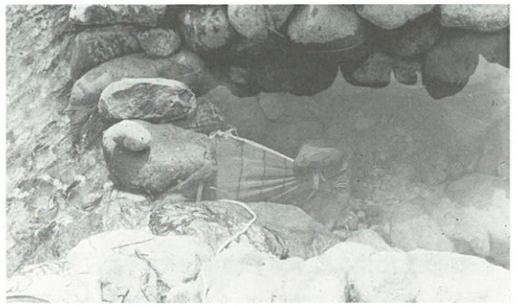
アジメ穴漁は，“アジメドジョウがアジメ穴へ潜る習性”を利用し穫る漁法である。アジメ穴からはわき水が出ており，アジメドジョウが仕掛けの下流側から出るわき水にさそわれてくる。そして，アジメ穴に入ろうとする手前で獲るのである。アジメ穴の入口（わき水の出口）付近に仕掛けを作るので，確実に獲ることができる。

一方，登り落ち漁とは，石などを伝って川を登ってきたアジメドジョウを，仕掛けに導いて獲る漁法である。下流から登ってきたアジメドジョウは，瀬切板に突き当たる。すると，板を乗り越えて上流に行けないため，流れの弱い部分を板沿いに移動し，仕掛けの中に吸い込まれるように落ち込む。仕掛けからは，外に出ることができない仕組みになっており，このようにして生けどりにするのである。






◀アジメ穴漁の仕掛け
（参考資料：「人と魚の知恵くらべ」和田吉弘著 岐阜新聞社）



▲アジメ穴漁の仕掛け（「アジメドジョウの増殖に関する研究」岐阜県水産試験場研究報告）

▲登り落ち漁の仕掛け（矢印はアジメドジョウの動き）

これらの漁法は，広い川の中でわき水を探し当てたり，絶えず変化する川の水位をいつも気にしたりしなければならず，熟練が必要である。

## どのようにして食べるの？

県内には，昔からアジメドジョウを食べる習慣がある地域が多い。その地域ではアジメドジョウを，佃煮，天ぷら，唐揚げ，卵とじなどにして食べる。

▼アジメドジョウの佃煮と天ぷら

実際に食べてみると，さすが清流にすんでいるドジョウだけあって，臭みがなく，おいしく食べることができる。また，骨が柔らかいので，天ぷらにしても丸ごと食べることができる。

アジメドジョウを獲り食べるという文化は，この清流があったからこそ，受け継がれてきたと言えよう。今後も清流を大切に守っていくことが，清流にすむ生物を未来へ残していくことにつながるだろう。いつまでも，清流の国ぎふと呼ばれるふるさとでありたいものである。

アジメドジョウに興味のある人は，アクア・トトぎふへ行くと，実際に見ることができる。

**アクア・トトぎふ**
（岐阜県世界淡水魚園水族館）
各務原市川島笠田町1453　0586-89-8200
**開館時間**：9:30～17:00（土日祝は18:00まで）
**休館日**：不定休
**入館料**：中学生 1,100円，一般 1,500円